特別展『彼方へ旅立ちて 七十年(ななそじ)

北原白秋の晩年にあたる昭和15~17年 の作品や資料から、その業績を検証します。 薄明の中で白秋が見つめていたものは、 何だったのでしょうか?

晩年の故郷柳川行きは、「海道東征」記念 多磨柳河大会の開催に向けたものであり、 文字通り望郷の願いがかなった瞬間でした。 旧友や旧知の人々との再会、海道東征のレ コード試聴や講演など、郷土で忙しく過ご しました。

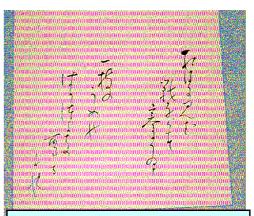
地元に残る資料や作品、遠来の貴重な品々が物語る白秋像をご紹介します。



昭和16年頃朝刊に眼を通す。 (阿佐ヶ谷)

多磨会員を伴い立花邸庭園にて(昭和16年3月22日) 最前列中央の黒いソフト帽が白秋





病中吟 おほに見む戦ならず寒にみて 一枝の梅の張り勁き剪る

初出「読売新聞」昭和17年2月 歌集『牡丹の木』

展示期間11月1日(木)~1月31日(木)展示会場白秋記念館2階展示室

北原白秋生家·記念館

柳川市沖端町55-1

電話 (0944) 72-6773

開館時間:9時~17時/会期中12月30日~1月1日は休館 入館料:大人400円、高校生350円、小中学生150円

< 主な展示品 >

歌幅(自筆)

「おほに見む・・・」 「はるあさみ・・・」

色紙(自筆)

「多磨」

「秋は早や・・

短冊(自筆)

「濃きかげの・・・」

白秋肖像写真

自筆署名入り写真

白秋書籍(初版本) 多磨柳河大會の写真

昭和16年3月に行われた歌会 に集まった人々

【特別展示】白秋・耕筰作品を染め抜 いた婚礼引出物風呂敷(山田耕筰の直 弟子:嘉納愛子氏所蔵)※この展示だけ は、12月24日までになります。

> 秋は早や小竹の根かたに水引の つぶさに红し咲きにけるかも

> > 十席者り

平一後記を

野の七念散

屋レ時多策

一り柳午

ド高河前

演畑大十

び月講河

多に並内

磨於び公

映けに会

画る歌堂

二賀を向

巻懇行ふ

写に歌後

あ出会1

り席入時

選よ

の親ひ

映会

祝評に

、午

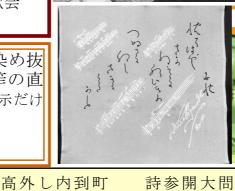
会時松。柳

話城

泊コよ磨

及松





ズヒキソウ (水引草)

左 短

。 ら冊

本に 俣修

留

昭和十六年三月柳河にて) 北原甚吉・白秋・岡茂政

揮

す る白

屋講児撮一役を

ママー (中略) (中略) ですを駆っている (中略)

の隆歓女一海朗承待学巡

道東征」が長など、校長など、大牟田

演風時故に女

奏。代隆擁学

中母入伯れに

声暮にに墓関演

轟夜てて参える 、殊成。目南 い既に関

の肝承さ校

歌嘱の南講

ド生故れ

多

 \mathcal{O}

とも

が行行り

南長

学覧ら長驅

に警し

に演童影族

斉

に開

赴催次

なきを訪 り、聴ふ早三

。平す歌善井へ風**晴**数よ海議小依**晴**に中と習共**晴** 野。を徳家助景 名り道所学嘱 泊のレ館に 名り道所学嘱 来招東に校に 訪宴征於を応 歓善 て経じ 会ド員農学 場試の学校 京聴為校参 政会に視観

察同

で旧先

薄大友考

三暮牟池大

池大田末塊

荘牟公氏翁

宿田会斡の

泊夜堂旋墓

在中於よ旧住学でり宅

の校公て訪

間にに参

`氏

る川コに散 野して策 氏ド を試午三 見聴後柱 舞会は神 ふを柳社 次催河前 です女の柳。学清 河昼校流 町食にに 有をてそ 志高 招椋生 待氏徒病 会のの友に月校川 臨光歌野 む荘自氏

山に作別

田て合荘

屋戴唱を

泊磨三に一及

饗発観参墓ひ 。しすそ午 。の前 を自て 張動少三付九 る車憩京近時 をデを平 绿江連 パ案野 江崎家の連ねて清-後二時 一内屋 トすを に。出 で大江にてい の清 昼部立 に至金会花参りたり に山の瀬鬼沖 至頂ー高童ノ

五 りに番町小端 号 江於をの路の 江族生 崎い参江橋生 て観崎本家 。邸政跡 に多

白 秋 0 旅 柳 泂 了 三 池 大牟 田 5 南 関 5

河

和